

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等		評価Ⅲ
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む	- コロナ禍の中で、十分な対策を行い、取り組んでいた。子どもたちにとって何が最善なのかを忘れず、今後も取り組みに期待します。 - 聞くだけの授業でなく、自ら考えて発表し、そしてみんなと考える姿勢が見える。 - タブレット端末の使用にも様々な工夫がなされ、興味や学習意欲へ繋がっている。 - タブレット端末の扱いが得意な子どもたちが先生へ教える姿も見られた。 - コロナ禍の中で、子ども同士の討論の時間など活動が制限されていたが、徐々にできるようになり、充実した学習になっていたように感じる。 - 体育大会において、子どもたちの体力の低下を感じた。この状況下では仕方ないと思うが、日常の中で積み上げればよいと思う。 - マスクを外しての体育の授業や窓を開けての音楽の授業で歌を歌うことなど、どんどんコロナ前の様な授業に戻りつつあると感じている。 - ICT機器を用いて、人前で自分の感じていることを発表する機会をもっと欲しい。 - コロナ禍であるのは理解しているが、自宅でパソコンに向かって歌っている姿は(音楽のテストかも?)距離をとれば対面でもできるのではと思った。少し工夫して対面授業を欲しい。	3
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	- あたり前のように学校へ登校することが、子どもたちのよりどころになることを望みます。その上で先生方だちとの対人関係から学んで欲しい。 - 家庭教育が基盤となるが、それが難しい家庭へのフォローが先生によって対応が違う。叱り方に関してして、子どもたちが理解できるよう、他の先生方へも伝え欲しい。 - 道徳教育に力を入れていると感じている。平和のこと、性のこと、生きるということ、多方面での心の教育に今後も期待を寄せたい。 - 子どもたちの立場になって親身になってくださる先生も沢山いらっしゃるが、一方でもう少しその子ども自身の背景や心の底にあるものを感じて欲しいと願う先生もいる。今後に期待したい。 - 児童との向き合い方を助言されている先生がいる。悪いことや間違えたことをしている時は、その児童に嫌われてもはっきりと伝えることも必要であると思う。 - 道徳を教科書で学ぶことも大切だが、身近な問題を通して考えることも必要と考える。 - 良いことも、悪いこともしっかりと子どもに伝えていただけており、感謝している。	2.6
3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	- 地域学校協議本部との定例会を開催し、互いに情報共有している。また学校は地域から学校活動への理解を得ている。更に学校は学校を開放することにも積極的である。 - 保護者では、なかなか出来ない事に限って、地域の皆さんが快く助け、フォローしてくれている。子どもたちと一緒に育ててくれている。 - この地域は地域の方とのつながりが強く、子どもにとって恵まれていると思う。ただ、私自身がPTAの役員をしなければ、学校はたくさんの人が関わっていることを知らなかったで、そういったことをもっと沢山のの方に知ってもらわなければならないかと思う。 - 幼児小連携の動きも活発になってきているので、ますます地域の中での子育てや教育に期待したい。 - 集団登校があるので、子どもたちは朝は安全に登校できているし、下校時もボランティアや地域の方に見守っていただけており、本当に有り難いと思う。 - マスクによって表情がわかりにくく、挨拶をしても返さない児童がいる。コロナ禍でそのようになってしまっている子、もともと挨拶をしない子、コミュニケーションが不足しているのかなと残念だと思ふ。 - 地域性なのか、校区に商店街もあり、学校の登下校を見守ってくださる方が多く、安心して学校に行かせることができる。	3.6
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	- 学校は、避難訓練、防災訓練をおこない、意識の高揚を図っている。子どもたちの訓練への取り組みも姿勢もおおむね真面目であった。 - 地域と連携しながら防災学習、避難訓練への取り組みが行われており、継続による効果が得られている。 - 高学年より低学年の方が教室の中やワークスペースが整理整頓されている。 - コロナウイルス感染症防止の対応が、今後変わっていく、対応する学校が大変なこともあるかと思う。 - 今年度はコロナに加え、インフルエンザも大流行し、心配であった。教室にエアコンが設置されたのは非常に良いが、加湿ができておらず、冬場の教室の湿度の確保ができればと思う。 - 引き渡し訓練や防災、防災訓練を親子で一緒にする機会を増やして欲しい。 - コロナウイルス感染症防止の観点からもこれ以上感染が拡大しないよう、学校は黙食をする等様々な工夫をして子どもを受け入れていた。 - 何かあってからでは遅いので、一人一人が防災に対する意識を高め、防災に触れる機会をたくさん作って欲しい。	3.2
教育目標 学ぶ喜びを実感させ、心豊かでたくましい子どもの育成を図る	- 目標に合わせて、キーワードを設ける等の工夫が見られた。目標達成していくために、日々の仕事にどのように落とし込めるかが更なる改善ポイントになる。 - 全体的にも子どもたちからは、いきいきとした笑顔も見られ、学校生活を楽しんでいるように見える。 - 発達に困難を抱えている子が増えているように思う。どの子にも一人一人丁寧に教えるというのは、今の1クラスの数では限界もあるのではないかと。私の周りでも算数は得意だが、国語が苦手、応用が苦手な子が増えているように感じる。考える力が育つ教育に期待したい。 - 自己表現の機会をたくさん増やすべきだ。子どもたちが興味・関心のあることをどんどん学んで欲しいと思う。 - パソコンやタブレットを用いて、遠く離れた環境の異なる地域の学校と一緒に学習できる機会を作りたい。	3
研究テーマ 自ら考え、共に学び、深め合う力を育成する授業の創造	- 研究テーマに沿って教科、領域を設定し、具体的な行動に移している。また、成果についても少しずつ出始めている。 - 国語力は一生求められるものなので、今後も育成に力を入れて欲しい。基礎となる力は、成果が得られているように感じる。 - 人との関わり方、お友だちとの距離感、知っていても当然だが、それが上手くできなくて困っている子どもが多いと感じる。	3.3
評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)		評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か		B
自己評価の結果の内容は適切か		B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か		B